

施肥例の利用にあたって

(1) 施肥量は県で作成した施肥基準に従っているが、銘柄によっては必ずしも一致しない。

また、基肥 * 追肥の他、追肥成分を含有した一発肥料の銘柄等、**数種類の肥料銘柄を例示した。**

(2) それぞれの作物に対する改良 pH を示し、矯正する石灰質資材の施用量としては、作付前の pH を測定して決める。苦土炭カルによる**酸性矯正の目安量**は下記の通りとなる。

酸性矯正に必要な苦土炭カル目安量(kg/10a 深さ 15cm)

土壌区分	改良 pH	5.0	5.5	6.0	6.5
	現在 pH				
黒ボク土	4.5	100~120	200~240	300~360	400~480
	5.0				
	5.5				
	6.0				
灰色低地土	4.5	80~100	160~200	240~300	320~400
	5.0				
	5.5				
	6.0				

注) 深さに応じて目安量も加減する。

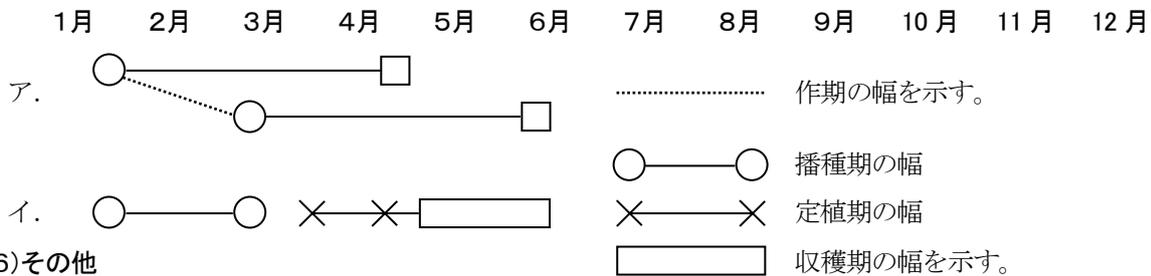
(3) 記号について

表の中の作型模式図の記号は次のとおりとする。

○	播種	∩	トンネル	⌢	ハウス	⊕	基肥
.....	苗代又は苗床期間	⊗	マルチ	△	ピンチ	⊕	中間追肥
—	生育期間	♡	萌芽期	山	高冷地山上げ	⊕	穂肥
×	定植	~~~~	休眠期				
□	収穫期間	⊗	一斉刈	①②③④	は追肥回数と時期を示す。		

(4) 基肥一発肥料に配合してある被覆窒素の主な溶出期間(20~80%溶出)を ←→ で表し、穂肥又は追肥の欄にその分量を記載した。

(5) 作型模式図の読み方について



(6) その他

①保証成分の欄の含は含有成分を示す。

②施設栽培には土壤診断結果による施肥例を示した。

③低PKは、窒素成分・被覆窒素の配合割合は同じで、りん酸と加里を低成分にした低コスト肥料。

連年施用する場合は、**数年に一度 土壤診断**を実施し、土壤の肥沃状況を確認する必要がある。